



2014 世界マラリアデーイベント

ひとりのチカラ 世界の命

POWER OF ONE

【開催報告】

2014 年 4 月 25 日（金） 19:00-21:00 会場：The GARDEN Ginza（東京都中央区）

4 月 25 日の世界マラリアデーに合わせて、マラリア制圧に取り組む日本の 4 団体で開催されたイベントは、これまでマラリア制圧に取り組んできた専門家や関係者以外にも起業や BOP ビジネスへ関心がある若い層などを中心に 100 名以上が参加しました。

立食形式のスタイルをとりながら、マラリア制圧に研究開発・民間企業や NPO の事業を通じて取り組む第一線のスピーカーよりわかりやすくマラリアについて、またその最前線での取り組みを紹介。会場からも活発に質疑応答が飛び出、終始和やかな雰囲気となりました。

後半のステージでは世界初の女性ニャティティ奏者アニャンゴさんが登場。ご自身のマラリアに罹った経験を交えながら、美しい歌声と共にニャティティを演奏していただきました。演奏後は会場で参加者の方と気軽に話すなど、楽しい時間となりました。

会場では壁面での写真の展示や映像によるマラリアの基礎情報の紹介、また屋上スペースを用いたマラリアに関連した展示なども実施。来場した方にマラリアについてトークや音楽以外にも体感していただける工夫も行われました。

堀井 俊宏

大阪大学微生物病研究所教授

マラリアとは何か、マラリア原虫の活動の様子の写真も交えながら、わかりやすく紹介していただきました。会場からの質問を経て、マラリア制圧のための研究開発の最前線の動きを紹介していただきました。会場の大きなスクリーンに映し出されるマラリアの詳細な説明や日本に昭和 30 年代まで残っていたマラリアの紹介、また大阪大学で進められるマラリアワクチン開発の取り組みの専門的な話題の紹介に、参加者は熱心に聞き入っていました。

水野達男

Malaria No More Japan 専務理事

前職となる住友化学ベクターコントロール事業部長時代の長期残効型防虫蚊帳「オリセット」の配布の現場での経験からまだ世界には予防可能な病気であるマラリアの予防のための取り組みがまだ足りないことを実感。現在は Malaria No More Japan 専務理事として、マラリア制圧のための国内外での支援事業や普及啓発事業を実施していることを、自身の経験を踏まえながら話していただきました。

最後に「私たちにできること」の取り組みとして、4月25日の世界マラリアデーを記念して Malaria No More Japan が創設したゼロマラリア賞を紹介。同賞はマラリア制圧のために取り組む個人、団体を表彰する試みとして、第1回受賞団体として、国際青年会議所による蚊帳をアフリカの子どもに送るキャンペーン「Nothing But Nets」への長年の募金協力を高く評価し、公益社団法人日本青年会議所に賞が贈られました。

表彰後、公益社団法人日本青年会議所より簡単に Nothing But Nets の取り組みを紹介していただきました。

本イベントは、4月25日の世界マラリアデーを記念して開催されました。これまで実施されてきたシンポジウムや講座などとは異なり会場をレストランにし、また抗議スタイルではなく会場の参加者も気軽にスピーカーやミュージシャンと交流をしたり、参加者同士が積極的にコミュニケーションを図るなど、非常に和やかなイベントとなりました。

イベント概要

【日時】 2014年4月25日[金] 19:00 - 21:00 (開場 18:30)

【場所】 The GARDEN Ginza (東京都中央区)

【主催】 一般社団法人グローバルヘルス技術振興基金 (GHIT Fund)、特定非営利活動法人日本医療政策機構 (HGPI)、公益財団法人日本国際交流センター (JCIE) /世界基金支援日本委員会 (FGFJ)、特定非営利活動法人 Malaria No More Japan (MNMJ)

【協力】 政策研究大学院大学グローバルヘルス・イノベーション政策プログラム、公益社団法人日本青年会議所

【POWER OF ONE キャンペーンへの参加】 同イベントは、Malaria No More Japan が米国本部と共に進めるアフリカの子どもたちへマラリア初期治療のための簡易診断テスト・抗マラリア薬キットを届けるキャンペーンに賛同、参加費 3000 円のうち 500 円が同キャンペーンへ寄付されました。

【プログラム】

進行： 伊藤 聡子、日本国際交流センター執理事務・世界基金支援日本委員会事務局長

登壇者プロフィール

トーク



堀井 俊宏

大阪大学微生物病研究所教授

1953年生。1976年大阪大学理学部卒業、1980年同助手。1984より1986年米国ダートマス大医学部准教授。1991年大阪大学微生物病研究所助教授、1999年より同教授。2005年より同附属難治感染症対策研究センター長及び感染症国際研究センター長併任。

今回のイベントでは、寄生虫病マラリアの知られざる生活環(ライフ・サイクル)、実は深い関係がある日本とマラリアの歴史、貧困病としてのマラリアや、いまだ世の中に存在しない効果的なマラリアワクチン開発に向けた日本発の取り組みなど、マラリア研究の第一線で活躍する堀井先生に解説していただきました。



水野 達男

マラリア・ノーモア・ジャパン専務理事 (元住友化学ベクターコントロール事業部長)

北海道大学卒業後、22年間の米国外資勤務、1999年に住友化学入社。2007年からはアフリカにおける、マラリア予防蚊帳の製造・販売・研究拠点をタンザニアに設立、現地JVの役員を務める。2012年11月から

今回のイベントでは、日本の技術を活かしアフリカでの蚊帳の製造・販売に尽力した経験などから、パワフルなトークでマラリアに携わる仕事について考えるためのきっかけをお話していただきました。民間企業の取り組み、NGOの取り組み、蚊帳等配布現場などより具体的な現場の声をご紹介いただきました。

トーク&ミニライブ



アニャンゴ

東京生まれ。アフリカの音楽に魅了され、単身ケニア奥地の村で修業し、現地でも限られた男性だけに演奏が許されているニャティティの世界初の女性奏者となる。日本国内だけでなく、アフリカ、ヨーロッパなどでも広く演奏活動を行っている。2010年8月、FUJIROCKに出演。2011年11月、テレビ朝日「徹子の部屋」出演。2013年10月、4枚目となる『ALEGO～ニャティティの故郷』をリリース。12月、『翼はニャティティ舞台は地球』(学芸みらい社)を出版。Anyangoとはルオ語で、「午前中に生まれた女の子」という意味。日本ケニア文化親善大使として、日本全国各地の小・中学校で公演も行っている。<http://anyango.com/>

アニャンゴ自身のマラリアの経験や、現場で感じたことなどを交えながら、日本からできることについて、美しいニャティティの演奏とともに語っていただきました。

【主催団体について】

■一般社団法人 グローバルヘルス技術振興基金（GHIT Fund）

一般社団法人グローバルヘルス技術振興基金（Global Health Innovative Technology Fund: GHIT Fund）は、日本の製薬会社5社、日本国政府2省庁、そしてビル&メリンダ・ゲイツ財団の共同出資によって2013年4月に設立されました。開発途上国に蔓延するマラリア、結核および顧みられない熱帯病の制圧に向けて、日本が保有する技術やイノベーションを活かした研究開発を推進しています。2013年度は抗マラリア薬2件、マラリアワクチン2件の国際共同研究に対して約4.4億円を助成しました。<http://www.ghitfund.org/>

■特定非営利活動法人 日本医療政策機構（HGPI）

市民主体の医療政策を実現すべく2004年に設立されたシンクタンクです。これまで、特定の政党、団体の立場にとらわれず、独立のシンクタンクとして、幅広いステークホルダーを結集し、新しい政策議論の場を提供してきました。グローバルな視点に立った医療政策に関する調査研究、政策提言、人材育成、情報交流、助成事業を実施し、持続可能でより豊かな社会の実現に向け、変革を促す原動力となることを目指しています。
<http://www.hgpi.org/>

■公益財団法人 日本国際交流センター（JCIE）／世界基金支援日本委員会（FGFJ）

国際関係や地球的課題、政治経済などの政策課題をめぐり、日本と諸外国の相互理解と協力関係を促進することを目的として1970年に設立された民間の事業型財団。東京とニューヨークに拠点を置き、国際的な政策対話・共同研究、政策提言、企業市民活動の推進など、非営利・非政府としての立場から幅広い国際交流事業を実施しています。近年は国際保健分野における日本の貢献の強化を重点分野の一つとし「グローバル・ヘルスと人間の安全保障プログラム」、世界エイズ・結核・マラリア対策基金を支援する日本の国内委員会「世界基金支援日本委員会（FGFJ）」（<http://www.jcie.or.jp/fgfj/top.html>）等の事業を実施しています。

■特定非営利活動法人 Malaria No More Japan（MNMJ）

世界的なマラリア撲滅の流れを日本およびアジア地域においても加速させるべく、2012年11月、日本に設立。マラリアのない世界を目指し、支援を必要とする地域へのサポートや、国内外での啓発活動を行います。本部は、2006年米国に設立された非営利活動法人 Malaria No More。マラリア撲滅が世界的に重要な課題であることを啓発するための活動や、各国政府、他の非営利団体、国連、民間企業との連携を通じた政策提言活動を展開、英国にも支部を置きます。昨秋より、Malaria No More 米国本部で行っている「Power of One」キャンペーンをサポートするため4月25日より日本でも実施します。
<http://www.mnmj.asia/>